

教 区 報

第108号 2017年12月

日本ハリストス正教会教団
東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局

〒980-0021 仙台市青葉区中央3丁目4番20号

電話 022-225-2744 fax 022-224-3080

振替 02200-2-30428「東日本主教々区宗務局」



<http://www.orthodox-sendai.com/orthodox@hyper.ocn.ne.jp>

主の降誕祭



至高きには光栄神に歸し
地には平安降り、
人には恵臨めり

—ルカ伝2章14節—

『至と高きには光栄神に歸し、地には平安降り、人に恵みは臨めり』

準備をせずにいても、暦どおりにその日がやってくる。しかし真の「降誕祭の喜び」がもたらされるわけではない。「祈り」は日常のなかに醜さや、傲慢、妬み、蔑みを発見させ、時として自己嫌悪や自暴自棄に向かわせてしまうこともある。だが逃げ出さず、勇気をもって正面から自分の醜さと対峙してみるといい。心の貧しくした者の謙遜は天において宝になる。感謝を込めて祈り、願い、

すべてを神に打ち明けると主は応えてくれるだろう。あなたは私の愛に値する存在で、この世に輝く尊い灯だと。私のベツレヘムでの誕生を見なさい、貧しさの中に生まれ、蔑みのなかで過ごしたことを思い起こしなさいと。そして世俗にまみれたあなたを私は受け取ると。なぜなら主の追い求めるのは正しい人でなく「罪人」であるから。悲惨の淵に沈倫している世の人の苦しみを喜びに変え、導かれる。こうして主の与え賜う真の喜びは貧しい人の心に輝き、生まれる。

ハリストス生まる！ 崇め讃めよ！

全国公会の開催

7/8-9 東京



平成29年度の全国公会が7月8日(土)、9日(日)の両日にわたり、東京本会のニコライ会館にて開催された。全国の神品、信徒代議員約70名が集い、諸活動の報告、財務関係、役員改選、人事等の議題について討議された。

主日聖体礼儀では盛岡正教会のダヴィド水口神父と大阪正教会のゲオルギイ松島神父が長司祭に昇叙され、飾り十字架とパーリツアの佩用が祝福された。また人事ではワシリイ加藤神父がご高齢の為に仙台正教会に専念することになり、中新田正教会は児玉神父が兼務、また九州管区についてはパウエル及川神父に替わりワシリイ

杉村神父の任命が発表された。
公会は最後にセラフイム大主教座下ご司祷による聖ニコライのモレーベンを献じ、聖堂前で記念撮影、また会館では公会閉会の慰労会が行われて終了した。



▲ダニイル府主教座下とセラフイム大主教座下



▲長司祭に昇叙される水口神父





▲参加全神品による主日聖体礼儀



▲訓示を述べられるセラフィム大主教座下



▲信徒会館2階で行われた教区会議

6月24日(土)、25日(日)の両日、東日本の教区会議が札幌正教会の聖堂建立百年祭に併せて行われた教区会議に引き続き2年連続の北海道内での開催となった。

24日は午後から理事会が開催され、教区会議の前に財務他の資料について報告と確認が行われた。25日は主日聖体礼儀に引き続き、理事、信徒代議員35名の出席のもと、昨年の業務報告と決算、次年度業務計画と予算その他が討議された。

会議の冒頭にはセラフィム大主教座下の御訓示があり、教会において人をどう呼び寄せ交わりを持つかという宣教の中心テーマについて話され、管轄司祭と信

者が共に信仰の喜びの伝え方を考えることが大事であることが指摘された。

議事においては特に質問や意見は出されず、活動報告や財務の全ての議題が承認された。その他では教区センターの役割も持つ仙台正教会館の老朽化に伴い、将来的な展望を持って検討する時期が来ているという意見が出された。また出席理事の宿泊費について今後教区で支出することが承認された。会計監事は長年勤められた盛岡のステファン荒浜兄が退任され新たに一関のワシリイ小野寺兄が選出され、ハリサンブ大立目兄は留任となった。会議は最後に全国公会代議員を決めて無事終了した。

セラフイム大主教座下ご巡回

一関・中新田・札幌

■一関正教会

9月2日(土)、3日(日)にセラフイム大主教座下は一関正教会をご巡回され、司祭叙聖30年の節目を迎えられたマルコ小池神父へのお祝いの贈呈と、長年にわたり金成正教会執事長としてご尽力されてきたイリヤ川股峰輝兄への感謝状授与が行われた。一関管轄の信徒も集まって祝意を表し、小池神父と川股兄の益々のご健勝をお祈りした。

▼大主教座下と
小池神父ご夫妻▲感謝状を受け取る
イリヤ川股峰輝兄

▲秋の収穫祭で感謝祈禱が献じられた(中新田)

▼見違えるほど
明るくなった聖堂▲聖水が注がれ
聖膏が塗布された

■中新田正教会

10月29日(日)、中新田ではセラフイム大主教座下をお迎えして臨時信徒総会と収穫祭が行われた。聖堂建替えに向けて取り組んでいるが、その境内地の整備の一環として空家となった貸家の解体等について教団の承認を得るための総会だった。提案は全員賛同し可決され、その後収穫祭を祝う昼食会が開かれ、大主教座下を交えてしばし懇談した。

■札幌正教会

セラフイム大主教座下はイコノスタスの取り換え、聖堂内部の全面塗装他の修復を完了した札幌正教会を11月11日(土)、13日(月)に訪れた。12日(日)の主日聖体礼儀の前に管轄のイアコフ篠永神父と共に聖堂内部の修復成聖式を行われた。

大主教座下は集まった約60名の信徒を前に「札幌正教会信徒の信仰心とその努力を嘉し、天に宝を積むことの大切さ、堂の美なるを愛する心」を説かれた。修復された聖堂は真っ白な壁とLEDの電球に替えられたシャンデリヤで、見えるほど明るくなった。



▲ニコライ堂を訪問された
イラリオン府主教座下

ご講演される
セラフィム大主教座下 ▶



ロシア文化省主催 国際会議 「日本の聖ニコライと モスクワの聖インノケンティ」

ロシア文化省主催の標記の会議が11月8日(水)に在日ロシア連邦大使館で開催され、日露の研究者参加のもと、セラフィム大主教座下の講演も行われた。

ロシア正教会渉外局長のイラリオン府主教座下も来日されて前日にニコライ堂を訪問された。



旧石巻正教会会堂再建へ

東日本大震災で津波被害に遭い、解体され保存されていた石巻正教会旧会堂は、この度ようやく再建に着手することとなり、9月20日(水)に石巻市中瀬の現地でセラフィム大主教座下ご司祷による土地成聖と安全祈願の祈禱が献じられた。施工業者が主催し、石巻市副市長をはじめ工事関係者と石巻正教会信徒が参加して行われたものである。

今後保存されている部材を調査し、土地のかさ上げも行われる予定であり、完成は来年度の見込み。



震災前の石巻正教会旧会堂

正教会の言葉

正教会の祈祷文に「小詠頌」と呼ばれるものがあります。「光荣は父と子と聖神に帰す、今もいつも世々に、アミン」と詠われるもので、信徒にとつてはとても馴染深い祈祷文です。聖堂に参拝すると、この祈祷文が何回も繰り返されるのを耳にします。これは奉神礼の歴史において、神とは聖三者（神・父、神・子、神・聖神）であるという大切な教えを衆人に確実な形で知らしめるためでした。

「帰す」という言葉の解釈として判り易いのは、この「小詠頌」のもう一つの訳文「光荣は父と子と聖神のものなり、今もいつも世々に、アミン」です。つまり「光荣」とは神のものである、神固有のものである、という意味です。

私たちは日々の信仰生活の中で、どのような時に「神の光荣」を感じるでしょうか。在らざるところ無く、満たざるところ無い全能者である神は、あらゆる被造物の中にヒントを備えておられます。要は、私たちがそれを見出す霊の眼をもっているかどうかです。野の花一輪に込められた可憐な美しさ、新たな生命が生まれ出ずる神秘、母の子に対する無償無限の愛、隣人のために祈る心…。私たちの日常は、神に光荣を帰す「理由」になんと満ち満ちていることでしょうか。

悪魔は、人間が神を讃美することを嫌いますから、人間がそのような美しく完成された世界から目を逸らし、汚いものばかりを見るようにしむけます。私たちは、このよう

「光荣」について

長司祭 ニコライ・ドミートリエフ



イコン「至聖三者」 アンドレイ・リュブリョフ

な悪魔の誘いに簡単に乗せられてはなりません。

コリンフ前書第6章20節には、次のように記されています。

「故に均しく神に属する爾らの身を以て、爾らの霊を以て、光荣を神に帰せよ」。

ここから解することは、神が求めておられることは、口で「光荣は神に帰す」と言うことだけではないということです。私たちが自らの身体を使い、自らの心を砕いて、神に喜ばれる人間となること——これこそが「光荣を神に帰す」ということの意味なのです。



▲各地の教会信徒が
親交を温めた懇親会



▲盛岡ゆかりの信者の
生涯を学んだ

東北ブロック信徒懇親会は盛岡正教会が担当となり10月22日(日)、23日(月)に盛岡つなぎ温泉の「ホテル大観」を会場にして開催された。

懇親会は午後6時に開会祈祷、管轄司祭の水口神父による歓迎の言葉とセラフイム大主教座下の挨拶で始まった。地元信徒によるさんさ踊りや前執事長の佐藤兄のアコーディオン、水口神父も伴奏や笛で大活躍。また恒例の教会近況報告で互いの状況を知り、大いに懇親を深めた。

翌日は水口神父による「盛岡正教会の先人たちの」の講話が行われ、盛岡ゆかりのダニイル須川長之助とモイセイ浜野茂の生涯について興味深く学んだ。

■東北ブロック宣教会議（写真 下）

9月14日(木)、今年度第一回目となる東北ブロック宣教会議が一関正教会で行われた。仙台のウェラ山中姉、盛岡のシメオン湊兄、涌谷のニコライ木村兄もそれぞれ前の委員の後任として加わり、新しい視点での発言が期待されている。



■北海道ブロック宣教会議（写真 上）

11月18日(土)、小樽正教会にて北海道ブロック教会学校教師会が、また19日(日)には主日聖体礼儀後に宣教会議が開催された。半期を振り返ってそれぞれの教会活動の報告と残っている行事の確認、来年の予定案を検討した。



北海道ブロック

9月1日(金)-3日(日)にかけて釧路正教会で北海道ブロック聖歌研修会が行われた。初日はスヴェトラナ山崎姉による「永眠者の記憶」の講義、2日目はステファン内田神父の旧約の解説、エレナ笠原姉による「正教会聖歌に必要な音楽知識」の講義も行われた。聖体礼儀とパニヒダも行われ、その後に参加者による熱心な意見交換が行われた。

聖歌研修会

11月17日(金)、18日(土)と仙台正教会で今年度の東北ブロック聖歌研修会が開催された。35名の参加者は初めにダヴィド水口神父の「埋葬式祈祷文の解説」の講義を受け、続いて指揮者グループの実技、発声練習を行なった。誦経の奉仕者はルカ田畑神父から指導を受けた。聖体礼儀、パニヒダでは役割分担をしながら実践に臨み、反省会が行われた。

東北ブロック





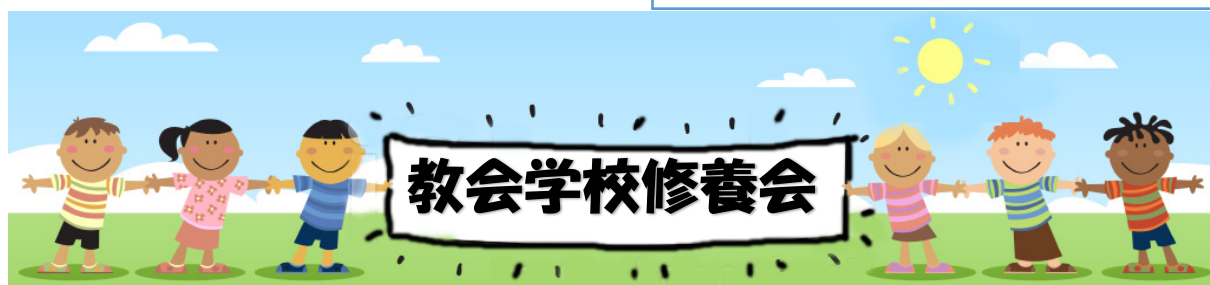
北海道ブロック



8月1日(火)から3日(木)まで北海道では「キャンプだホイ！」が札幌正教会の担当で深川市のネイパル深川で開催された。北海道各地、東京、京都からも集まり49名の参加者となった。

初日は移動と夕食のバーベキューと勉強会、スポーツクライミング。二日目は旭山動物園をグループで見学、ネイパル深川に戻って質問コーナーで学び、星座観察を行った。最終日キャンプの思い出を川柳に詠み、和室では札幌の婦人会によるお茶を頂き「お点前」のさわりを体験した。

好天に恵まれ、都会の喧騒を離れて自然を満喫した。来年は函館・上磯が会場となる。再会を約束して楽しいキャンプを終えた。



教会学校修養会

東北ブロックの夏季修養会が7月30日(日)、31日(月)の日程で仙台正教会が当番となって秋保温泉の「木の家」で開催された。子供たちも12名が集まり賑やかな修養会となった。

雨天を心配したが、当日は曇りで川遊びも予定通り出来た。夕食は子供たちも手伝ってバーベキュー。夕食後、スイカ割、花火、マジックショーと「ろうそくもらい」という函館地方の七夕の子供の行事を楽しんだ。神父さんへの質問コーナーでは鋭い質問も飛び出して大いに学んだ。

翌日は仙台天文台でプラネタリウムと展示物の見学、お昼には皆でレストランでナポリタンハンバーグを頂いた。子供たちの元気に後押しされた今年の修養会。来年も盛会になるよう多くの参加を呼び掛けて行きたい。



東北ブロック





盛岡管轄

北鹿では6/18(日)に王門が取り外されてイコノ6点が修復中。米年3月に完成予定。

盛岡では8/14(月)に夏休み子供会を開催。ファミリーから帰省中のご家族や近隣のご家族も加わり、バーベキューやガリガニ釣り、貼り絵、スイカ割で楽しい一日を過ごした。



一関管轄

7/16(日)に盛でアルコ小池神父の司祭叙聖30年を記念して祭服一式が贈られた。

7/20(木)、一関の聖堂クーパーの十字架の修復が行われ、剥がれた銅板を付け直した。足場を組まずに高所作業車で工事を行った。



石巻管轄

5/24(日)、石巻で

は婚配機密が行われた。聖堂は久しぶりの婚配式で華やかだ。8/11(金)の祝日「山の日は石巻で管轄区5教会の総ベニヒダが行われ、祈祷後には納涼会として外でバーベキューの昼食を楽しんだ。



函館管轄

8/23(水)～9/15(金)まで聖堂の耐震診断で地盤調査や聖堂の壁のコーティング、実測調査などが行われた。詳細な解析に基づいて2020年頃に耐震工事が行われる予定。10/9(月)、恒例の教会バザーが開催された。隣の函館西高校によるオーブニング演奏が始まり、今年も沢山の方々を訪れた。上機からの野菜が早々に完売し、急ぎ教会菜園の野菜を収穫して販売した。前代未聞のことである。がラム缶スーのトワモロコシも好評だった。



釧路管轄

10/29(日)に帯広集会が行われた。釧路から大型ワゴン車に移動用宝座などを積込んで出発。幕別町札内の若草町近隣センターで主日聖体礼儀を執行。続けてリナイヤ、司祭講話も行われた。25名参加。



各地のニュース 東北・北海道



仙台管轄

仙台では信徒会館のリニューアルを図り3階和室に机と椅子を入れ、1階靴箱なども新しくした。ロッカーを購入し資料も整理された。10/14(土)には第34回バザーが開催され、沢山の市民が訪れた。仙台ロシア合唱団なども協力して盛り上げられた。



札幌管轄

9/18(火)の敬老の日に旭川顕栄会の総ベニヒダが行われ、祈祷後茶菓をいっただきながら懇談した。9/23(土)は秋分の日で恒例の「はぎの会」が催された。聖堂でモレイベントが催され、会館では今年も婦人会のハワイアンダンスが披露された。



